

虹のかけはし

〒528-0074

滋賀県甲賀市水口町松尾 1256 番地

TEL:0748-62-0234(代) FAX:0748-63-0588

<http://www.kohka-hp.or.jp/>



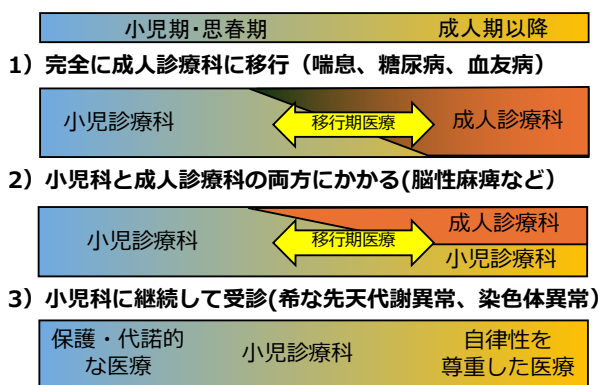
【こどもから大人へ移行期医療をご存じですか？】

小児科部長 多賀 崇

2025 年 4 月に着任しました多賀崇です。現在、当院小児科は、田口周馬部長、坂根舞波医師、私の 3 名の常勤医を中心に、外来・入院診療、救急対応、新生児診療などを担当しています。平日は 8 時 30 分から 18 時まで、土日祝日も 9 時から 18 時まで小児科医が在院し診療を行っています。夜間については、同じ小児医療圏で連携する済生会滋賀県病院に救急対応をお願いしています。また、地域の小児科医不足という現状を踏まえ、2023 年 10 月から平日午前診察および土日祝日の 9 時から 18 時については、紹介状をお持ちでない新患の方にも選定療養費をいただかず診療を行っています。医療の集約化が進む中でも、甲賀地域の子どもたちを支える地域の拠点として努めてまいります。

さて、近年、小児科領域で重要なテーマとなっているのが「移行期医療」です。これは、小児期から継続して医療を受けている患者さんが、成人後に適切な成人診療科へ移行できるよう支援する取り組みを指します（図）。

移行期医療の概念図



（小児科学会の提言から）

対象となる疾患は、先天性心疾患、気管支ぜんそく、てんかん、糖尿病、小児がん経験者、発達特性のある方など多岐にわたります。しかし、体格や病態の変化に加え、保護者中心の医療から本人主体の医療へ移行する必要があるため、単純に診療科を変更するだけでは解決できない課題も少なくありません。

甲賀地域でも、「子どもの頃からの病気をもちながら大人になる方」は今後さらに増えていくと考えられます。その方々を支えるためには、専門病院だけでなく地域の内科や各専門診療科、かかりつけ医との連携が欠かせません。小児科の役割は病気を治すことだけではなく、「元気に大人になるお手伝い」をすることでもあります。これからも地域の医療機関の皆さまと協力しながら、子どもたちの未来を支えていきたいと思っています。

【PRP（多血小板血漿）治療について】

整形外科部長 上中 一泰



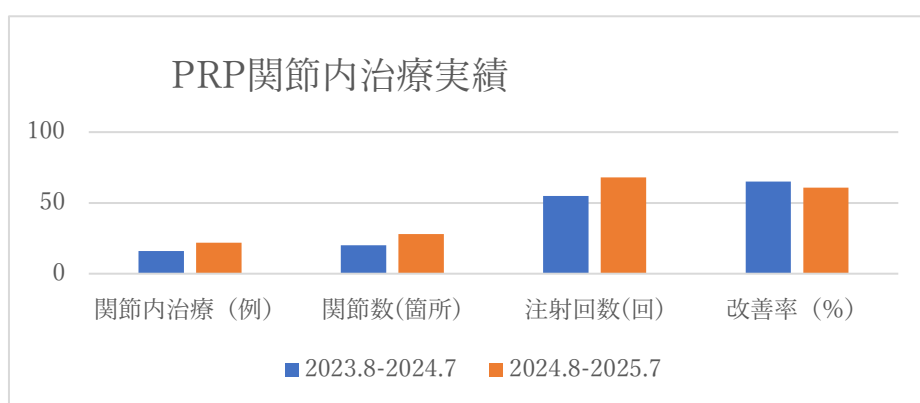
PRP（Platelet-Rich Plasma：多血小板血漿）治療は、ご自身の血液を利用して組織の修復を促す再生医療の一つです。当院では2023年11月よりスタートしました。関節内治療実績をグラフで示します。昨年7月までに38名の患者さんへ治療を行いました（図）。約60％程度の改善率を認めました。治療の実際は15ccほど採血した血液を専用の機器で遠心分離し、血小板を多く含む成分（PRP）を取り出して、痛みや障害のある部位に注射します。

血小板には、傷ついた組織の修復を助けるさまざまな成長因子が含まれています。PRP治療では、これらの成長因子の働きによって炎症を抑え、痛みを軽減し、組織の回復を促すことが期待されています。

変形性膝関節症では、加齢や長年の負担によって軟骨がすり減り、痛みや歩行障害が生じます。PRP治療は、すり減った軟骨を元通りに再生する治療ではありませんが、関節内の炎症を抑え、痛みや動きにくさを改善することで、日常生活や運動を続けやすくする効果が期待されています。特に比較的早期から中等度の変形性膝関節症の患者さんで良好な結果が報告されています。

また、スポーツ障害に対してもPRP治療が行われています。テニス肘、アキレス腱炎、膝蓋腱炎、肩腱板断裂、そのほか筋肉や靱帯の損傷などに対し、組織の治癒を促進する目的で使用されます。競技復帰を目指すアスリートだけでなく、趣味のスポーツを楽しむ方にも選択肢の一つとなっています。

当院では、患者さん一人ひとりの症状や病状を十分に評価したうえで、PRP治療が適しているかを判断し、最適な治療方法をご提案いたします。関節の痛みやスポーツ障害でお困りの方は、お気軽にご相談ください。



編集後記

本号もご覧いただきありがとうございます。

入退院支援センターに異動して2年弱経過しました。

日々の業務の中で、地域の皆様とのつながりや多職種連携の大切さを改めて実感しています。

患者さんが安心して入院でき、退院後も住み慣れた地域や自宅でその人らしい生活を送ることができるように今後も努力したいと思います。

これから暑い日々が続きますが、皆様どうかお体にお気をつけてお過ごしください。(N)

